

法政大学 大原社会問題研究所 環境アーカイブズ ニューズレター

第8号 2022

C O N T E N T S

- 平和希求運動の軌跡（宇野淳子）…（1）
 「ミニコミ資料」の所蔵情報の共有に向けてー環境アーカイブズ見学会に参加して（堀内寛雄）…（2）
 環境アーカイブズのガイダンスー活用しながら資料の活用を促進する（山本唯人）…（4）
 活動紹介（Fung Wan Yin Kimberly・須田佳実）…（6） トピックス（宇野淳子・山本唯人）・資料公開情報（加藤旭人）…（7）
 2022年活動報告・利用案内…（8）



平和希求運動の軌跡

文学研究と共に反戦・反核運動を続けられた故 西田勝氏が収集した資料の一部である本資料群は1964年から2010年に作成された国内外の刊行物（下段左）やミニコミ、チラシ、行政刊行物（下段右）、自作のスクラップブック（上段）等、西田氏のまなざしの広さを反映した構成になっている。1994年まで法政大学文学部の教員であった西田氏は、全国初の「非核大学宣言」や「法政平和大学」（下段中央）の設立に尽力した。それと共に、一市民として平和を希求する活動を生涯続けた。

（西田勝収集・平和問題関係資料 0049-0929～0946、0839、0227、0178）
 （環境アーカイブズ専門囑託（アーキビスト） 宇野淳子）

「ミニコミ資料」の所蔵情報の共有に向けて —環境アーカイブズ見学会に参加して

ネットワーク・市民アーカイブ資料調査スタッフ **堀内 寛雄**

はじめに

2022年8月20日（土）、ネットワーク・市民アーカイブ(NW・市民アーカイブ)主催による法政大学・環境アーカイブズ見学会「1970～90年代のミニコミを見に行こう！」に参加しました。2011年、当時の「市民活動資料・情報センターをつくる会」(NW・市民アーカイブの前身)が保管していた「東京都立多摩社会教育会館旧市民活動サービスコーナー所蔵資料」(「市民活動サービスコーナー所蔵資料」)の環境アーカイブズへの寄託(現在は寄贈)が決まった時期に開催された見学会に参加させていただいて以来、2度目の見学でした。

前回、当時プロジェクトに関わっておられた金慶南先生の案内で、資料の収納先となる予定のまだ空の状態の書架を見てから10年余、整理された膨大な資料が収納された中性紙保存箱が、整然と配架された書庫を拝見して、感慨深いものがありました。またその後、筆者が勤務していた国立国会図書館(「NDL」)憲政資料室において、金先生に韓国での公文書管理事情等についての説明聴取会の講師をお願いするという縁もありました。本稿では、今回実際に拝見した「ミニコミ」資料類に焦点を絞って、本見学会で感じた点や、現在市民アーカイブ多摩で収集、所蔵している資料との関係等について少々感じたことを述べさせていただくことにします。

市民アーカイブ多摩での資料整理作業

筆者は、4年前より玉川上水駅近くの市民アーカイブ多摩で、日々受け入れているミニコミ、ビラ類の資料整理、ファイル等への繰り込み作業を担当しています。現在、同所で収集している資料は、その前身である市民活動サービスコーナー時代から継続して受け入れているミニコミ、雑誌類の他、以後あらたに収集したタイトルを合わせて2千タイトルを超え、これまでにデータ入力された資料の総点数は6万点余に及んでいます(2022年6月現在)。2014年の開館以来、増え続ける資料を収納してきた書架スペースは、ほぼ満架の状態となり、一昨年、同一敷地内の別棟(「岸中書庫」)へ書架を増設して、一部タイトルのバックナンバーを移送する作業を行いました。したがって現在は2か所に分散して保管しています。

また、資料の移送に合わせて、移送資料の所蔵巻号確認、ファイルや収納箱の整備もある程度行い、さらに「岸中書庫」の保管環境を把握するために、開館日の窓開けと温湿度環境の測定を随時行うこととしました。もともと、一般住居として使用されていた場であり、専用書庫とは比べられませんが、今のところ、極端な温湿度の上昇、下降の変化は見られず、当面の保管場所としては問題なさそうです。

見学会で感じたこと

今回、市民アーカイブ多摩所蔵資料の源流と言える、市民活動サービスコーナー所蔵資料の保管の現状を知るため参加した見学会でしたが、温湿度管理などにおける適切な資料保管環境や、専任アーキビストによる資料取り扱いに対するきめ細かさなど、利用体制、管理・保管の現状をかいまみることができました。また、移管資料の一部については、市民活動サービスコーナー時代に、すでに上質な製本が為されていたことなども初めて知ることができました。

特に、資料の整理・保管方式における市民アーカイブ多摩との相違に注目しました。市民アーカイブ多摩で日々受け入れる資料は、書架から直接利用者が手にとって閲覧することが前提となっています(写真1)。個々のタイトルごとに繰り込まれたファイル、箱類が、書架上に分類番号順に配架されており、新たに到着した資料を順次繰り込んでいくことになります。

一方、環境アーカイブズ保管のミニコミ資料は、主に2002年以前に発行されたタイトルを中心にして「凍結」された資料群として移管されたものです(写真2)(詳細は記録集『ようこそ！市民アーカイブ多摩へー市民活動の記録を残す運動の歩みー』(2020年3月)参照)。したがって、移管時点での箱詰めされた資料の状態を原秩序として整理がなされたものと推察され、HP上で公開されている一覧リスト(https://k-archives.ws.hosei.ac.jp/public_document/0042/)を確認すると、同一タイトルの資料でも異なる資料番号が付されているケースや継続巻号が連番とはなっていないケースなども散見されます。この点は、当資料群について、環境アーカイブズ所管の他資料群と共通する原秩序に基づく資料整理の原則を採用したことから当然のことと思われる。



写真1 市民アーカイブ多摩のミニコミの書架



写真2 環境アーカイブズのミニコミの書架

分割された資料群

以上のような、凍結された資料群として保管されている環境アーカイブズ所蔵資料と日々生成を続ける市民アーカイブ多摩の所蔵資料を比較すると、極端な比喻かもしれませんが、公文書の世界におけるいわゆる「歴史公文書」と「現用文書」といったイメージが連想されました。また同一タイトルの資料群が、ある時期を境に「分割」されているという事象については、自身のこれまでの経験からも想起するところがあります。

筆者は、憲政資料室で、日本近現代の政治家、官僚、軍人等が所蔵していた「個人文書」の収集、整理、公開、保管の仕事に関わってきましたが、同一人物の資料が、様々な事情で分割されて保管されているケースは、珍しくありません。例えば、大久保利通、伊藤博文などの明治期の政治家の個人文書が、憲政資料室の他、宮内庁書陵部や国立歴史民俗博物館、各個人記念館等に分割保管されている他、戦前、戦後の官僚等の個人文書も、憲政資料室と国立公文書館、衆議院憲政記念館などで分割して所蔵しているケースもあります（拙稿「公文書と個人文書—日本近現代史研究における両輪—」『自由思想』160号、2022年4月）。

このような分割保管されている資料の所在について、統合的、横断的に文書の所在情報を発掘して共有するために、『日本近現代人物史料情報辞典』全4巻（2004～11年、吉川弘文館）といったツールの作成が試みられてきました。また、近年脚光を浴びている「脚本アーカイブズ」については、「日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム」が収集保管していたテレビ・ラジオの放送脚本・台本が、1980年を境とし

て、NDLと川崎市市民ミュージアム等に分割して寄贈、公開されています。その書誌データを統合して一覧・検索できる「脚本データベース」（<http://db.nkac.or.jp/>）が同コンソーシアムによって、構築されています。

「新しい目録」作成に向けて

ところで、市民アーカイブ多摩の所蔵ミニコミの目録で現在オープンとなっているのはHP上に地域別（http://www.c-archive.jp/s-list_1.html）と分野別（ただし旧分類から未更新）（http://www.c-archive.jp/s-list_4.html）のタイトルリストが掲載されている他には、前掲の『ようこそ！』巻末掲載の分類番号順のタイトルリストに限られています。また別途、タイトルの五十音順と発行者の五十音順リストが主に資料整理作業用としてアーカイブに備えてあります。

そこで、市民アーカイブ多摩では、多摩地域の公共図書館等におけるミニコミ所在状況も勘案しながら、新しい目録作成に着手することを考えています。現在のHP上のリストを改訂するとともに、新目録には、タイトル、発行者、地域別等の軸から検索を可能にする要素を盛り込み、また環境アーカイブズ所蔵ミニコミとの連続性を意識して、共通して所蔵するタイトルに注記を入れることなどの工夫も考えられます。

おわりに

2022年2月開催の環境・市民活動アーカイブズ資料整理研究会「図書から広がる市民活動資料の世界」において、宮崎翔一さん（元環境アーカイブズRA）は、環境アーカイブズの課題として「ミニコミ・図書・雑誌の横断的検索機能の追加」と「法政大学多摩図書館「多摩地域資料」との連携」の2つを挙げられています。また同研究会のレビューで、NW・市民アーカイブ事務局の江頭晃子さん（元市民活動サービスコーナー職員）は、「資料をいかに市民活動・運動そのものに活かしていくかという横の連携」とともに、「縦軸の歴史を重視した所在の早期共有化と保存の視点」の重要性を指摘されました。

以上の重要な指摘を念頭におきつつ、今後の「新目録」作成にあたっては、環境アーカイブズや公共図書館を含めた多摩地域全体でのミニコミ収集、保存、活用を促進していくための契機ともなるように考えていければと思っています。

環境アーカイブズのガイダンス —活用しながら資料の活用を促進する

法政大学大原社会問題研究所特任准教授（環境アーカイブズ担当） **山本 唯人**

ガイダンスの経緯と概要

環境アーカイブズでは、2022年度、設立後はじめて、環境アーカイブズの使い方を学ぶことを目的とした、学部生向けのガイダンスを実施した。

この活動は、2020年7月、筆者が実施したリサーチ活動に端を発し、2020年12月以降、環境アーカイブズスタッフと法政大学社会学部教員の参加による2回の資料整理研究会、2022年1月、鈴木宗徳ゼミとの特別連携セミナーを経て、今年度から「資料の活用促進」策の柱として実施したものである。

具体的には、社会学部が学部1年生向けに開講する「基礎演習」の受講生を対象に、1コマ・100分を使って、環境アーカイブズスタッフがゼミの教室に出向き、「100分de ガイダンス 環境資料って何？—環境アーカイブズの使い方」と題したプログラムを実施した。

全体は「第1部 レクチャー：環境アーカイブズの使い方」と「第2部 ワークショップ：資料を読んでみよう」からなる。第1部では目録・資料群概要などを使って資料を探すための技術を教え、第2部では具体的な資料（レプリカ）を手に取り、そこから何を読み取れるかをワークショップ形式で体験する。第2部は、グループワークの形を取り、最後に読み取った成果を発表して終了となる。

ワークショップでは、①葉害スモンの資料を使って、運動のビラを基に展示を作る、あるいは、②1980年代の多摩地域で発行されたミニコミを使って、内容を紹介する壁新聞を作るというワークのどちらかを、学生たちにやってもらった。

社会学部では38の基礎演習が開講されているが、事前に社会学部の演習講師にチラシを配り、受講希望を募った。その結果、春学期は7月に2ゼミ、秋学期は10～12月に6ゼミの応募があり、そのすべてでガイダンスが実現した。

ガイダンスの環境アーカイブズ側でのスタッフ体制は、まず教員が活動全体のディレクションとプログラム・配布資料作成の責任者となり、アーキビストがレクチャー部分の監修と資料管理・レプリカ作



ガイダンスのワークショップ風景 2022年7月12日(岡野内正先生ゼミ)

成・物品管理を担当。その上で当日スタッフは、ガイダンス全体の進行とレクチャーを担当する指導員と、それを補佐する指導員補佐のユニットを組み、教員の山本は原則全部の回に参加、アーキビストとリサーチアシスタント（RA）には、最低でも1回、本人の希望で指導員か指導員補佐のどちらかを務めてもらった。第2部のワークショップは、当日スタッフのなかに希望者があれば、オリジナルなプログラムを作成し、実施してもらうことにした。将来、資料整理の担当者が、自らの業務の一環でその資料を使ったワークを考案し、ガイダンスに活用できることになれば、その担当者の実績となり、ワークのプログラムも充実するだろう。

利用者のニーズを把握する—ガイダンスの役割

清水善仁は、アーカイブズの基本機能が資料の収集・整理・保存・公開にあることを確認した上で、アーカイブズ情報は発信されない限り利用者はその存在を知ることができず、「公開」機能の発揮を担保するためにも、「公開」機能自体とは区別された「アウトリーチ」の活動が必要であると指摘する（『アーカイブズにおけるアウトリーチ活動論』『アーカイブズ学研究』No.14, 2011.3）。今回実施したガイダンスは、このような意味での「アウトリーチ」の試みであるといえることができる。

アーカイブズが実証的な根拠を持って活用を促進するには、利用者のニーズを何らかの形で把握しなければならない。一方、アーカイブズの本務は資料

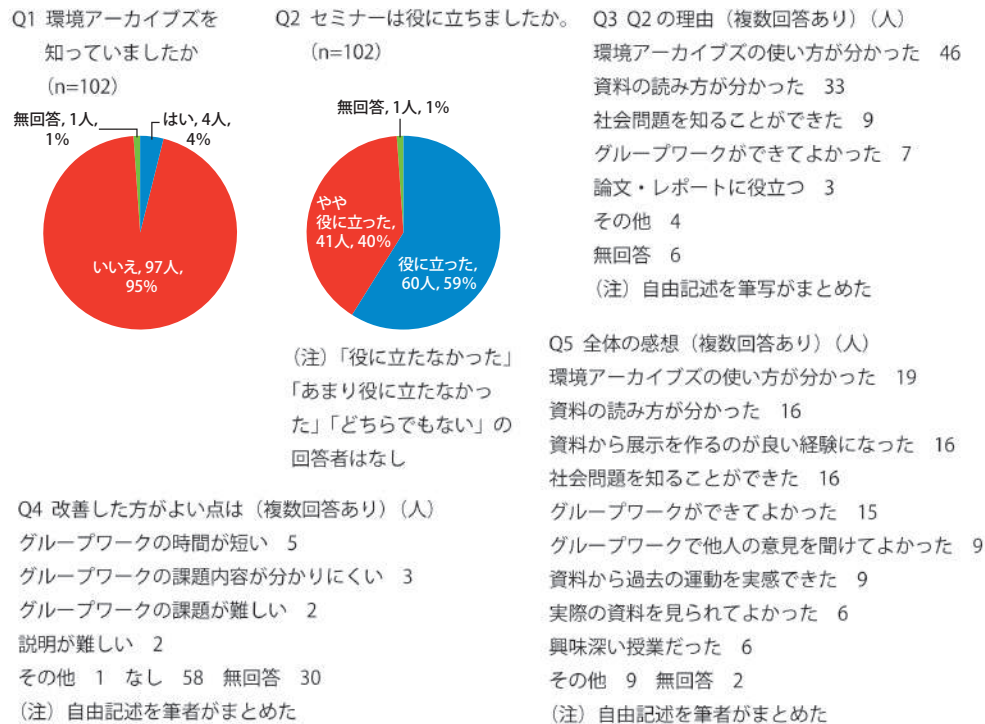


図1 ガイダンスのアンケート結果 (2022年度・社会学部基礎演習8ゼミで実施)

の「公開」にあり、その資料を実際に「活用」するのは外部の利用者である。この関係のもとでは、利用者のニーズがどこにあるのかを、アーカイブズ側が直接把握することは難しい。ガイダンスの活動は、この「公開」と「活用」という接続しているが、異なる二つの活動に橋をかけるような役割を果たす。

ガイダンスのなかで、アーカイブズはその存在を「広範囲の人々に認識してもらい、そのことを通して利用の促進やアーカイブズ情報の有用性を広く伝える」(清水)という目的のために、検索方法の説明やワークショップなどを企画し、資料を自ら「活用」する。このガイダンスから得られる反応は、資料が外部の利用者によって「活用」されたとき、その利用者が何につまずくのか、何は有効に伝わるのかを把握する貴重な情報源となる。この反応をオフィス内に情報として蓄積し、日常業務にフィードバックさせることで、理論からの推測ではなく、現実的な根拠を持った活用促進が可能になり、引いてはアーカイブズの活用自体、質・量ともに発展するだろう。

では、今回のガイダンスに学生からどのような反応があったか。受講者アンケートをもとに見てみよう。アンケートは毎回のガイダンスが終わった直後に行ない、全体で102件の回答を得られた。結果は図1の通りである。

Q2の結果を見ると、無回答の1人を除いて全員が「役に立った」と答えてくれた。Q3でその理由を見ると、「環境アーカイブズの使い方が分かった」が最大で46人、次に「資料の読み方が分かった」が33人だった。学生は「本」で調べること、そのために「図書館」を使うことは知っているが、「資料」で調べる方法があること、そのために「アーカイブズ」があることを知っている例は少ないだろう。そもそも、「資料」が分からなければ、「アーカイブズ」の使い方を学ぶ理由も分からない。その意味で「資料」の読み方を一定程度、伝えられたのは、本ガイダンスの成果と言えるだろう。また「グループワーク」に反応している学生は多く、その有効性も確認できた。「社会問題を知ることができた」という回答は、ワークショップの資料を通して、薬害スモンや、1980年代の多摩の市民活動(公民館問題・子育て・障害者運動)の存在を読み取れたことを指している。

一方、改善点を見ると、ワークの時間をじっくりとり、その経験を豊かにすることが、充実の鍵であることが伝わってくる。

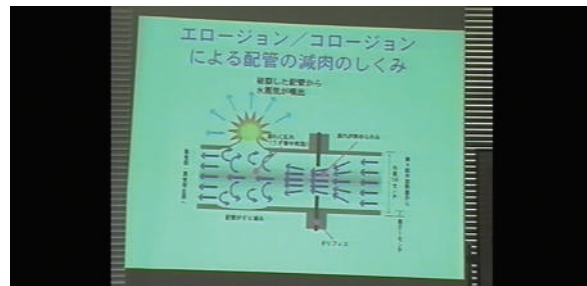
こうした知見を、実際に資料を提供し、読み合う経験を重ねながら収集し、アーカイブズの活動に反映させていくことで、活動の質を高め、利用件数を伸ばすことにもつながるだろう。

活動紹介

【0047 原子力資料情報室寄贈視聴覚資料】

原子力資料情報室寄贈視聴覚資料は、特定非営利活動法人（認定NPO）原子力資料情報室で収集・作成してきた原子力や自然エネルギーに関する、計571本の映像資料で構成されています。原子力資料情報室や他の脱原発市民団体の主催した集会・研究会の映像ならびに、原発問題に関する映画・ドキュメンタリー・報道番組や、研究機関の講演・セミナーの映像など、1978年から2012年までの資料が含まれています。原子力資料情報室のホームページによれば、「原子力資料情報室は、原子力に依存しない社会の実現をめざしてつくられた非営利の調査研究機関」であり、「産業界とは独立した立場から、原子力に関する各種資料の収集や調査研究などを行なっています」。本資料群は、そうした観点から収集されたものに位置付けられます。現在、全ファイルの目録公開に向けて、目録の校正やデジタル化の作業を行っています。

美浜発電所に関する資料に着目してみます。日本原子力学会「2004年秋の大会」美浜3号機事故特別セッションで、産業界代表と職業科学者の講演後、何人もの人が「一般市民」や「普通の市民」として質問しました(0047-0558等)。科学知識を生成する場に、



原子力資料情報室が美浜3号機事故について解説した際に使ったパワーポイントのスライド(0047-0564)

市民がいたのです。そして、市民は、知識を共有する場も作っています。原子力資料情報室は、他の団体と共催した集会で事故について解説しました(0564)。また、1991年の美浜2号機事故に関する複数の報道映像が同じVHSテープに収録されています(0295)。「美浜事故シンポ資料」という表題からみると、シンポジウムの資料として使われたのではないかと考えられます。原子力資料情報室寄贈視聴覚資料は、市民が主体となり「原子力に依存しない社会」に近づくために、知識を生み出し共有する営みとその記録であり、「市民」と「科学」との関わり方について様々な可能性を提示してくれる資料群と言えるでしょう。

(環境アーカイブズRA Fung Wan Yin Kimberly)

【0007 自然の権利関係資料】

「自然の権利関係資料」とは、1990～2000年代の日本における「自然の権利」訴訟運動の思想や理論、そして展開の過程をめぐる市民運動の資料群です。

「自然の権利」とは、自然保護のために環境倫理学から提起された概念で、1970年代にアメリカ合衆国において自然物（木、川、動物など）が原告となった裁判が展開し、自然物に法的人格を認めることは出来るのか、という議論を喚起しました。こうした法学的議論の潮流を受け、日本では1990年代前半に、弁護士・籠橋隆明氏が奄美大島におけるゴルフ場開発に反対する地域運動を支援する中で、動物を原告とした裁判、通称「アマミノクロウサギ訴訟」が1995年に始まりました。

本資料群は、ジャーナリスト・佐久間淳子氏が1994年に籠橋弁護士と出会い「自然の権利」訴訟運動に関わるなかで作成・収集したものです。2010年6月、当時の環境アーカイブズに寄託されました。資料の一部は既に公開されていますが、大部分は未公開のままです。2017年度まで資料整理が行われてきましたが公開には至らず、2022年10月に再開させました。現在は、これまでの資料整理状況の概要調査を行っています。

同資料群の特徴の一つは、佐久間氏が理事を務めた「自然の権利セミナー」の学習会などをめぐる資料と、地域の側から声をあげた団体や個人の資料が共に残されており、両者の文脈から運動の意義と過程が窺える点です。後者については例えば、「アマミノクロウサギ訴訟」を起した団体・環境ネットワーク奄美の会報『あまん』があげられます。会報には、裁判結果だけでなく奄美の民話紹介や読者の交流欄が設けられていました。また、代表の蘭博明氏が教員時代に作成した冊子『奄美の歴史』(1984年)も含まれています。今後は概要調査の結果をまとめ、既存目録や資料群構造を再検討し、公開準備を進めていきます。

(環境アーカイブズRA 須田佳実)



写真左「あまん」、右「奄美の歴史」。これらは未公開資料分に含まれている。

トピックス

◆LU募金の活用について

リーディング・ユニバーシティ法政募金（LU募金）は、本学の教育・研究活動への支援としていただくものです。本年度は2019年1月31日に林喜代三さんから環境アーカイブズへと指定いただいてご寄付いただいた募金を執行する最終年度となります。

本年度は、昨年度に引き続き0008古賀照男 薬害スモン資料のデジタル化に使わせていただきます。環境アーカイブズの資料は現代資料ならではの特徴として、感熱紙や青焼きなど、時間を経ることで文字が不鮮明になる素材が多く含まれています。長く利用していただくための保存措置として、資料整理や閲覧申請があった折に資料の状態をみながらスタッフが撮影等の方法により代替化資料を部分的に作成しています。しかし、網羅的かつ一定の質を保つことは容易ではありません。そこで、ご寄付いただいた募金を活用させていただき、国際マイクロ写真工業社に委託してデジタル化を行っています。

LU募金の活用により、書庫内での資料保存状況の改善や資料の代替化資料の作成などを行うことができました。改めまして林喜代三さんに御礼申し上げます。（専門嘱託（アーキビスト）宇野淳子）

◆『大原社会問題研究所雑誌』・サリドマイド事件関係資料特集を刊行

『大原社会問題研究所雑誌』第769号（2022年11月号）に環境アーカイブズ所蔵の「川俣修壽・サリドマイド事件関係資料」の特集が掲載されました。

本特集は担当教員の山本唯人による「環境アーカイブズのなかの薬害問題」、本資料群・第3次寄贈分整理担当者の長谷川達朗氏による「高度成長期の薬害と家族・消費」、立命館大学生存学研究所客員協力研究員の松枝亜希子氏による「サリドマイド訴訟への市民運動による支援と原告団との見解の相違について」、本資料群寄贈者の川俣修壽氏による「サリドマイド事件の歴史的資料」の4論文で構成されます。大原社会問題研究所のウェブサイトから、全文を読むことができます。

これまでも、環境アーカイブズの資料群を紹介する特集はありましたが、本特集では、外部からの研究者、資料寄贈者の執筆に加え、資料整理担当者の長谷川氏と企画段階で討論し、専門の歴史学の立場から資料を取り上げ、サリドマイド事件の一端について研究してもらいました。資料群と日常的に接する立場から、研究成果を蓄積していく取り組みでもあります。（山本唯人）

資料公開情報（受入番号0042）新聞目録の公開

環境アーカイブズRA 加藤 旭 人

2022年度、環境アーカイブズは、受入番号0042「東京都立多摩社会教育会館旧市民活動サービスコーナー所蔵資料」（以下、「多摩資料」）の追加公開をしました。今回の追加公開では、新たに「新聞」目録（19点）を公開しました。また、「ミニコミ・雑誌」目録に『月刊社会教育』（資料番号0042-Z-社001）および『社会教育』（資料番号0042-Z-社002）を追加公開しました。今年度の追加公開と前年度に追加公開した「ミニコミ・図書3」および「ミニコミ・雑誌」をもって、多摩資料の大部分を公開することができました。

資料整理を通じて感じたことは、雑誌および新聞が、多摩資料のミニコミや図書と有機的なつながりを持っていることです。印象的だったのは、消費者問題や女性運動に関連する新聞が、多摩資料のミニコミや図書に関連のある個人や社会課題を幅広く紹介していることでした。

個別の市民活動が共有する1970～2000年代の多摩地域という重層的なコンテクストは、ミニコミ、図書、雑誌、新聞というそれぞれ異なる特性を持つ資料を読み解くことで、より具体的に把握することができます。時代とともに変容する市民社会のダイナミズムを把握する作業は、個別の聞き取りやアンケート調査のみでは難しく、市民活動に関連する多様な資料が一体となって保存されることは大きな手掛りになります。今後は、こうした資料の活用を視野に入れながら、残りの資料の公開に向けた作業を継続していきます。



受入番号0042「東京都立多摩社会教育会館旧市民活動サービスコーナー所蔵資料」・「新聞」の収蔵風景

2022 年活動報告

◆ 日誌

- 1月14日** 鈴木宗徳ゼミ×環境アーカイブズ連携特別セミナー「環境アーカイブズに貴重な環境資料を見に行こう！」開催
- 2月7日** 資料整理研究会「薬害の歴史的位置、薬害ディスコースをめぐって」、報告：松枝亜希子・長谷川達朗
- 2月22日** 資料整理研究会（公開オンライン）「図書から広がる市民活動資料の世界」、報告：加藤旭人・宮崎翔一・山家利子
- 3月1日** 『法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズニューズレター』第7号発行
- 3月1・8日** 地下書庫リハウジング
- 3月2日** LU募金で受入番号0008古賀照男・薬害スモン資料の一部デジタル複製を作成
- 3月3日** 資料整理研究会、インタビュー：川俣修壽、聞き手：長谷川達朗・山本唯人
- 3月23日** 資料整理研究会「図書から広がる市民活動資料の世界」のレビュー記事をウェブサイトに掲載、評者：Fung Wan Yin Kimberly・江頭晃子
- 4月1日** 専門嘱託（アーキビスト）・宇野淳子着任（3月31日RA退任）
- 4月12日** 受入番号0042「東京都立多摩社会教育会館旧市民活動サービスコーナー資料」の「雑誌・社会教育」を追加公開
- 4月26日** 2022年度事業計画作成
- 5月17日** インタビュー：江頭晃子・杉山弘、聞き手：加藤旭人・宇野淳子・山本唯人
- 5月31日** HOSEIミュージアム訪問、デジタルアーカイブについて相談、山本唯人・宇野淳子
- 6月1日** RA・Fung Wan Yin Kimberly着任
- 6月28日・7月12日** 地下書庫リハウジング
- 7月5日・12日** ガイダンス 天本哲史・岡野内正先生ゼミ
- 7月19日** 資料整理研究会「『川俣修壽・サリドマイド事件関係資料』の整理と引継事項」、報告：長谷川達朗
- 7月30日** RA・長谷川達朗退任
- 8月20日** ネットワーク・市民アーカイブ主催「法政大学・環境アーカイブズ見学会」受入
- 10月1日** RA・須田佳実着任
- 10月4日・11日・18日・25日・11月1日・12月6日** ガイダンス 中村尚樹・三井さよ・恵羅さとみ・愼蒼宇・中筋直哉・菊澤佐江子先生ゼミ
- 10月18日・25日** 地下書庫リハウジング
- 11月1日** 『大原社会問題研究所雑誌』第769号・「高度経済成長のなかの薬害問題—サリドマイド事件関係資料を読み解く」特集刊行
- 12月1日** 受入番号0049「西田勝収集・平和問題関係資料」公開
- 12月12日** 安藤聡彦先生訪問調査、山本唯人
- 12月13日** 資料整理研究会「多摩市民活動資料の活用に向けて」、報告：加藤旭人・宇野淳子

利用案内

開室時間：平日9:00～16:30

土日祝日および大学が定めた休業日は、休室となります。また、夏季期間等に開室時間に変更になる場合があります。ホームページの「開室カレンダー」をご確認ください。

閲覧・見学をご希望の方は、事前に電話もしくはメールにて、来室日時をご予約下さい。

法政大学大原社会問題研究所・環境アーカイブズ

〒194-0298

東京都町田市相原町 4342

法政大学多摩キャンパス総合棟 5F

電話：042-783-2098

メール：k-archives@ml.hosei.ac.jp

ツイッター：@k_archives1

ホームページ：https://k-archives.ws.hosei.ac.jp/

82 大宮駅	JR埼京線快速—約32分	新宿駅	京王線準特急—約40分	めじろ台駅	バス—約10分
114 千葉駅	JR総武線快速—約39分	東京駅	JR中央線中央特別快速—約53分	西八王子駅	バス—約22分
25 八王子駅	JR中央線—約3分			西八王子駅	バス—約22分
28 町田駅	JR横浜線—約15分			相原駅	バス—約13分
62 横浜駅	JR横浜線—約13分	*新横浜駅	JR横浜線—約36分	相原駅	バス—約13分

※ 内の数字は、総所要時間（乗り換え時間を除く）を表す。★新横浜駅は経由で、乗り換えではありません。

多摩
キャンパス

※法政大学公式ウェブサイトより転載